

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100107		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	グループホーム ハートハウス南円山		
所在地	札幌市中央区南10条西23丁目2-13		
自己評価作成日	令和3年 12月2日	評価結果市町村受理日	令和4年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旭ヶ丘地区の閑静な住宅街に位置しており、向かいの公園では四季折々の景色が移ろいで子供達の遊ぶ声も聞くことができ、入居者の皆様にとって四季を感じやすく自然環境に恵まれたところです。
健康維持のため体操は毎日行っており、廊下は回廊式で手すりも設置して歩行運動をしやすい環境を整えています。また、職員は毎月事業所内の研修に参加し、ケアの質の向上のため研鑽に努めています。
例年、1階の多目的室は町内会の絵画教室など地域の方と交流を図れるようにしておりますが、コロナ禍において交流ができていない状況やご家族様との面会も一部制限させて頂いており、入居者の皆様には寂しい思いをさせてしまい心苦しく思います。コロナ禍の状況が改善された時には、地域の方やボランティアの方と交流を深めていき、外出行事等も再開して、より充実した生活を送って頂けるよう支援します。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190100107-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りバス停から近く、周辺は四季の変化が楽しめる自然豊かな住宅街に位置している。建物の前方には近くの住民が集う公園があり、遊具で遊ぶ子供達の声や姿が、コロナ禍で外出が困難な利用者にとって心む場面になっている。ときにはマスクを着け公園を散策するなど、利用者の気分転換を図っている。感染症予防の徹底を図り、利用者はいつもと変わらず紙飛行機飛ばしや輪投げ、調理の下準備などの家事や趣味の花を分け、読書や家族からの手紙を読み、ハロウィンなど季節のイベントを楽しんでいる。月1回の豪華なお弁当で外食気分につけ、お誕生日にはケーキでお祝いするなど、利用者が自分らしく伸びやかな生活ができる支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示し、カンファレンスで理念に沿ったケアが実施出来ているかどうか職員同士で確認しており、理念に近づけるケアに努めています。	地域との関わりの中で、利用者の豊かな生活を尊重する理念を策定している。コロナ禍により地域との関係性は難しいが、利用者にとって日々の暮らしが穏やかであるよう、寄り添いの支援が続けられている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	コロナ禍で町内会行事は中止となっていますが、町内会長様に蜂の巣の駆除依頼や地域の方からのオムツの寄贈もあり、地域の方との交流を行っています。	地域交流は双方で自粛しているが、回覧板や運営推進会議では書面を通して情報が得られ、廃品回収に協力している。町内会長始め住民からも様々な支援があり、職員は感謝の意を表している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、書面上ではありますが定期的に行われる運営推進会議を通じて、地域の方に生活の様子等お伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響もあり2か月に1回、書面上での開催となっています。開催の際は町内会長様等の地域代表の方の意見を伺い、サービス向上に努めています。	書面会議とし、利用状況や活動報告、事故の有無、感染症防止対策等を伝えている。その後に町内会長、地域包括職員、法人関係者から情報や助言が得られ運営に活かしている。家族の参加要請は継続としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者へ毎月の利用状況の報告を行っています。	行政機関とは、主に法人関係者が介護報酬改定に伴う書類の整備や災害時における業務継続計画書の策定、事故報告書の提出等に関わっている。地域包括職員とは、コロナ禍関連等の情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の年間計画で2回以上の身体拘束の研修を実施し、職員は必ず参加して身体拘束をしないケアの理解が深まるよう取り組んでいます。	身体拘束廃止に向けた指針をもとに、適正化委員会や研修会、不適切ケアへの自己チェックを適宜実施し、拘束の具体例とその弊害について共通認識を高めている。職員は、意識を持って適切なケアの継続に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度、身体拘束防止に向けた会議を開催し、勉強会を通じて高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じて学ぶ機会を設けていますが、活用できるような支援を実施するまでには至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容に沿って説明し、家族からの疑問も都度伺い、理解と納得を得た上でサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪時や電話応対時に意見を伺っており、要望を取り入れて反映させています。	家族には毎月、写真と個別に利用者の様子を記載したユニット便りを送付している。秋の味覚弁当の写真を見た家族から「美味しそう」との感想を得ている。常に利用者や家族の意見や要望を受け入れる態勢にある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者連絡会議で職員の意見を反映する機会を設けています。また自己申告書で各職員の要望や意見を聞く環境を整えています。	職員は、利用者担当や行事等の業務を分担する中でスキルアップに繋げている。管理者は、日常的に職員の意見や提案を傾聴しており、状況によっては法人関係者に報告し、業務改善に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書を通じて給与、業務量、やりがいの有無等の意見を各職員が反映できる仕組みを整備しています。また、年2回の人事考課の面談を通じ、向上心を持って働ける環境を整備しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を実施し研修参加者はユニット内で各職員へ伝達し、ユニット職員全体の力量向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループホームでの研修や勉強会、委員会での職員同士の交流や意見交換を通じてサービス向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前にご本人、ご家族様を交えてどんな生活を送りたいか要望を伺い、安心して入居して頂ける関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と会って、入居や入居後の生活について疑問や不安点があれば丁寧な説明を行い、安心して頂ける関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の実情や要望、ご本人の状態を基に必要としている支援を見極め、		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の主役はご本人であることを職員同士で認識し、ご本人のできる事は何かを考えて、職員を介して他の入居者様と支え合う関係づくりを築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響もあり、直接面会する機会が少なくなりましたが、電話や窓越し面会を通じて家族の絆を大切にできる機会を作っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出できる頻度は極端に減ってしまいましたが、入居者様の曾孫様やお孫様が窓越し面会で頻回に来訪して下さいます。	馴染みの人や場所との関係継続は困難ではあるが、利用者の要望で家族への電話を取り次いだり、不足の日用品を家族に伝え購入ができています。最近では、条件が整えば10分程度の面会は可能となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイムやレクリエーションでご本人同士が交流できる機会を作っています。その際は職員も積極的に入り、交流を通じて互いに支え合える関係が築き上げられるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご家族様の来訪や電話等を通じて、疑問や不安の解消につながるよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活状況やご本人の要望を踏まえて職員間でアセスメントを行い、ご本人の意向に沿った生活が送れるよう努めています。	職員は、利用者との会話や生活歴、家族の意見、介護記録等の中から根底にある思いの汲み取りに努めている。職員共有の連絡ノートにも気付きを記入しており、触れ合いを大切にしたケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時だけではなく、入居後も含めて過去の生活歴をご家族様やご本人から伺い情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で変化や発見があった時は、記録に残して職員同士で共有できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でご本人の要望を伺い、今のご本人の状況も踏まえながらケアカンファレンスを行って、現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画の更新時は、事前に得ていた利用者や家族の意向をもとに、月1回のモニタリング、医療従事者の所見、介護記録等を踏まえ職員間で意見交換が行われている。利用者にとって生きる喜びに繋がる支援目標を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基にケア記録を作成しており、健康観察表や申し送り、連絡ノートも活用しながら介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況や要望に応じて訪問看護、主治医と連携して取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出は控えている状況ですが、近隣の公園までの散歩や山側の窓一面に広がる紅葉を鑑賞しながら、気分転換を楽しんで頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を伺いながら主治医や看護師と密な連携を行い、安心した医療を受けられるよう支援しています。	協力医やかかりつけ医、歯科医による往診体制を整えている。利用者や家族は自由に主治医を選択しており、専門医や入居前の主治医への受診は、家族が対応している。訪問看護師による助言により、受診などの初期対応がスムーズに行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の健康管理(訪問看護師)でご本人の様子や変化をお伝えしており、日頃から相談できる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ書面や口頭で介護情報を提供しています。また退院に向けて医療機関の相談員や家族と相談、話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様へ重度化や終末期のケアについて説明し、医療と連携して最良のケアができるよう取り組んでいます。	入居時に重度化への対応指針で出来ること出来ないことを説明し、利用者や家族から同意を得ている。重篤時には、改めて看取りに関する確認書で意向を把握している。現在まで、看取りは経験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内でAED等の緊急対応時研修を定期的実施しています。事業所で連携して対応できるよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、防火管理者立会いの基で初期消火や避難経路の確認、避難誘導の手順について確認しています。	非常災害対策計画書と自然災害発生時の業務継続計画書を整備している。前職が消防署勤務である法人職員の指導の下、火災のみならず土砂災害など自然災害における避難訓練を実施し、危機管理を高めている。	法人本部や系列事業所、町内会との協力体制が整備されている。今後も、継続して安心安全に避難できる体制づくりに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の性格や信念を理解し、穏やかに過ごせるような声掛けを行っています。	職員は、業務上や接遇研修で、利用者が不快にならない言動のあり方を学んでいる。申し送り時は個人名を出さず、記録は利用者の目に触れない、言葉遣いや対応は優しく丁寧を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームではご本人の希望や意見を表出しやすい空間づくりを意識しています。その時の本人の状態に合わせて気持ちを汲み取り、希望が叶えられるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の時間を尊重し、ご本人らしい生活が送れるよう支援しています。体操等の日課となっている事に声掛けしますが、断られたときは意向を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの洋服を選んで頂いたり、定期的に訪問美容を依頼してカットやカラーも希望に合わせて、して頂けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から好みの物を伺い、苦手なものがある時は代替の副食を提供する等、食事を楽しんで頂けるように工夫しています。入居者様同士で交流しながら盛りつけ等のお手伝いをして頂いています。	献立は一汁三菜を基本に、朝食は牛乳を、昼食は果物を盛り込んで作成している。月一度、行事食の豪華なお弁当は、利用者や家族から好評を得ている。時には、お好み焼きやホットケーキを利用者と作り、会話が增す企画を立案している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は日々確認し、ご本人の状態に合わせて食事量を調整しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを実施しており、ご本人の状態に合わせて事前の準備やお手伝いをして頂いています。また、必要に応じて訪問歯科の受診ができるよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握し、必要な方にはパターンに合わせた声掛け誘導を実施しています。また、オムツ交換の際にはご本人の尊厳を尊重して、さりげない声掛けを行っています。	自分の意志でトイレを使用する、職員の支援の下トイレで排泄、ベッド上での交換、適切な衛生用品の活用など様々だが、羞恥心に配慮した支援に取り組んでいる。結果として失敗の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取量を意識し、レクや体操で体を動かし、血行促進が図れるよう取り組んでいます。また、医療機関とも相談し、個々の状況に応じて下剤調整も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の好みに合わせて入居前から使用されているシャンプーや石鹸を使用されたり、希望があればそのタイミングに合わせて入浴して頂くなど柔軟に対応しています。	入浴は、週2回を基本に支援し、利用者は入浴剤入りの湯船で寛いでいる。状態に応じて足湯をしながら背中にタオルを掛けてのシャワー浴もあるが、いずれもできない部分を支援し、会話からケアプランに反映することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムを把握し、長年慣れ親んでいたリズムに合わせ、安心した生活が送れるよう支援しています。また、定期的な巡回を通じて温度調整も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は処方都度、情報書を確認し職員間で共有しています。服薬前後の変化は逐一確認し、医療機関と連携がとれる体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や趣味を理解し、ご本人の力量に合わせた役割や好きなことを通じて、楽しく喜びある生活が送れるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出行事は実施できていませんが、短時間かつ密な状況ではない時に、近くの公園まで散歩に行けるよう支援しています。	外出は自粛しているが、近くの公園でのほんの少しの散歩や窓を開けて外気に触れている。コロナ禍が収束したときには、買い物や外食、動物園などの外出レクの再開を考慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自らお金を持たない方が多く、こちらでお預かりしています。お金を所持することで安心につながる方は、ご家族の了承を頂いた上で少額だけ所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたときはホームの電話を利用し、職員が取り次いで電話ができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、空間内の温度や湿度、臭気を確認・管理しています。また、不安や混乱を招かないよう環境整備を行い、安心して快適な生活を送ることができる工夫をしています。	職員は、心地良い生活空間になるよう、換気や温湿度、清掃等に気を配り、利用者が穏やかに過ごせる環境作りに努めている。クリスマスに因んだ飾り物や、ホワイトボードにはレクで制作した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りだけにならないように、気の合った入居者様同士で交流を図れるよう居場所づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の時間を大切に、安全に配慮しながら居室空間を作っています。また、少しでも安心して頂けるように、馴染みの物を居室に飾れるようご家族様と相談しています。	クローゼットが設置されている居室には、大切な仏壇や鏡台、調度品、ベッド等が持ち込まれている。家族写真や塗り絵などレクでの作品やクリスマスツリーを飾るなど、利用者や家族の思いが反映されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分や居室空間共に、一人一人の状態に合わせて、理解して使用しやすい環境づくりを意識しています。		